

# 18歳市民となるために・・・NIEを通して

兵庫県立西宮今津高等学校 校長 中西 朗  
教諭 銘苅 千栄子

## 1. NIEで目指す力

2016年は18歳選挙権が適応された初めての年となったが、これまで社会や政治の「仕組み」の学びはあっても、シチズンシップを育てる学びは、十分になされていたとは言えない。NIEに取り組むにあたって、テーマを、「18歳市民を育てる」とした。社会の一員として、公共社会と積極的に関わる意志、能力、素養をもった能動的な市民としての力を新聞を通して育てたいと考えたからだ。

本校は総合学科として10年目を迎え、この間、1年次「産業社会と人間」、2年次「総合的な学習の時間」、3年次「課題研究」において、「探究型」の学びを進めてきた。テーマを設定し⇒調べ⇒考え⇒まとめ⇒発表する、それぞれの過程において、具体的な「技術」を身に着ける様々な取り組みがなされてきた。資料や文献の探し方、分析の仕方、フィールドワークやアンケートの手法、インタビューの方法、パワーポイントの作成やポスターセッション、論文作成など、3年間を通じて、考え発表する「技術」を学ぶのだが、核にあるのは「問う力」を育てるところにある。そして、「問う力」が社会に向けられ、社会と関わる姿勢がシチズンシップであると考え、社会へ通じる窓である新聞を学ぶ、NIEに取り組むこととなった。

今回は主に、NIEを核に組み立てた学校設定科目「国語の世界」について報告する。

## 2. 実践報告

### (1) 学校設定科目「国語の世界」

3年次対象に学校設定科目「国語の世界」が設けられている。本年度は84名が受講し、

4人の教師で、3分野を担当した。「国語の世界」は、教科書や問題演習を離れて、ことばや文章を楽しむ・味わうことをねらいとした科目で、本年は①現代詩の世界、②小倉百人一首を味わう、③NIE、の3分野を、1年でめぐる展開であった。NIEについては、2名が担当し、前期2クラス後期2クラスで実施した。

### ●第1回NIE入門

#### 1-①NIE入門

- (i) NIEの目的、
- (ii) 新聞の特性
- (iii) 紙面の構成
- (iv) 他メディア

との比較を行い、新聞の持つ特性を知るガイダンスを行った。

(i)～(iii)については、パワーポイントで、教師による概説を行い、その後(iv)他メディアとの違いを班で討議しその後全体発表、最後に教師の解説とまとめを行った。

#### 1-②紙面の分析

最初に、朝日新聞と読売新聞の同日の第1面について、紙面の構成を分析した。「アタマ」「カタ」「ハラ」にどのような記事が割り振られているかを確認し、それぞれの見出しと内容を、各自でまとめた。次に、各自が持ってきた新聞1紙から、気になる記事を切り抜き、見出し、リード文、内容をまとめ、新聞記事の構成をつかむ作業を行った。これによって、今まで漫然と読んでいた新聞が、見出しだけ読んでも概観でき、リード文が5W1Hで構成され、伝えたいことが凝縮されていること、またそれぞれの新聞によって記事の扱いが異

新聞を開いて  
みよう!





り付けていく。記事の重要度や見やすさを考えながら1面・2面の紙面割りをを行い、それぞれの記事の分担を決める。

5-④資料集め

5-⑤記事やイラストを配置し完成

5-⑥相互評価

完成した各班の新聞を印刷し、他班の評価を行った。

以上は前期・後期共通の取り組みである。以下は前期・後期それぞれ別に行ったものを挙げる。

〔前期のみ〕

●第6回ひょうご新聞感想文コンクールに応募しよう！

新聞から社会への視点を開くことをねらいにここまでのプロセスを踏んできたが、次は自分と社会との関わりを考えるために、「新聞感想文コンクール」に応募することに取り組んだ。記事を読み自分の経験から意見をまとめることは、新聞をより身近なものとしてとらえられると同時に、社会の中での自分を考えるきっかけになってほしいというねらいである。6-①2015年度の優秀作品と「こくさいこどもフォーラム岡山」の高校生懸賞論文最優秀賞作品を読み、自己と関わる視点で書くことを指示し、6-②下書き、6-③清書を仕上げて応募した。

●第7回あなたは誰を選ぶ？…初めての選挙

今夏18歳を迎え、初めて投票する生徒もあり、生徒の関心は高かった。誰に投票するのか決める際に、新聞が重要な資料となっていることを知るために、朝日新聞掲載の候補者へのアンケートと同新聞がインタビューした「10代の声」を示し、自分にとって関心度が高い要素とその理由をまとめた。ただし、誰に投票するかは、きわめて個人の自由に委ねられるものであるため、投票したい候補者名は記入せず、候補者の政治方針をしっかりと

読み取り、違いを明確にすることにとどめた。

〔後期のみ〕

●第6回マイオピニオン

後期は授業時間に余裕があり、前期で十分に取り組みなかった、新聞を読み意見を持つ、という最も基本的な取り組みを行った。新聞を1紙持参し、ゆっくり読んでその中から気になった記事を切り抜き、意見をしっかりと書く取り組みを2回程度行うことができた。

●第7回私が選ぶ今年の十大ニュース

年末恒例の重大ニュース（十大ニュース）であるが、年末の発表となるので、インターネットアンケート（調査主体 マクロミル）のデーターを使って、各自が今年の十大ニュースを選び、合わせてそれについての感想や意見をまとめた。

〔最終講義〕

●講演会・明石 道夫さん（時事通信社 神戸総局 総局長）

「18歳市民のためのメディアリテラシー」と題して、出張講義を行っていただいた。卒業を前にし、



社会をどのように見ていくのか、関わっていくのか、ご自身の体験を交

えてわかりやすくお話いただいた。「ジャーナリストは炭鉱のカナリアである」という言葉は生徒に強く響いた。

（2）「保健」・「時事英語」でのNIE

1, 2年次の「保健」では、新聞を活用した取り組みを2012年から継続して取り組んでいる。健康や医療に関する記事を各学期3記事（合計9記事）を切り抜き、ワークシートに取り組む。シートは①書かれている内容、②その事象の背景と原因、③キーワード、④今後の見通し、⑤書き手の伝えたいメッセージ、

⑥自分で調べたこと、の6項目についてまとめるように作られている。

また、3年次に置かれている、学校設定科目「時事英語」では、英字新聞を使った学習に取り組んでいる。毎週、英字新聞から1記事が課題として出され、キーワードを調べて、要約を作る。さらにチームで要約のすり合わせを行いまとめあげる。次に1チームが代表として発表するというサイクルを、年間を通して行っている。国際理解を深めていく取り組みを行っている。

### 3. 成果と課題



総合学科発表会でのNIE展示

#### (1) 「国語の世界」

##### ●第1回NIE入門

普段新聞を読む習慣のない生徒たちが多く、新聞に構造があること、各新聞にカラーの違いがあること、地方紙の意義など、新聞について初めて知ることができ、NIEへの関心の糸口としての反応はよかった。

##### ●第2回社説の比較

「奨学金」という生徒に関心が高いと思われる話題を取りあげたが、基本的な用語の知識がないことと、社説レベルの読解の力が弱く、分析項目に沿って、違いを押しえることは比較的できたが、それに対する自分の意見を持つ、というところまではいかなかった。

##### ●第3回まわし読み新聞

新聞で楽しむことができるという発見が新鮮だったようだ。ただ班活動なので、メンバ

ーによって活動の内容が左右されてしまい、意欲的な班とそうでない班との温度差が大きいと感じた。

##### ●「山月記新聞」

どこまで発想を広げられるか、編集会議が重要であるが、活発な班との差がどうしても生まれてしまった。発想力のあるメンバーがいる班は、充実した紙面となったが、取り組みとしては難度が高かったようだ。また、逆にリーダーがいる班は、発言をしない消極的な生徒にとって与えられた指示をこなすだけ、という流れになってしまい、全員の活動を引き出すにはどうすればいいのかが課題である。

##### ●その他の活動

新聞をじっくり読むことが少ない生徒たちにとって、1紙全部に眼を通す経験は新鮮だったようだ。また社会への関心が少し広がったように感じる。

課題としては、生徒の相互評価をより多く取り入れるために、評価の観点をより具体的に示してやる必要があると感じた。また、グループ活動で、フリーライダーになってしまう生徒を出さない工夫が必要である。

従来から図書館では新聞を閲覧できる環境があったが、さらに校内に「新聞がある」環境を作る具体的な方法を考えたい。本年は食堂に新聞ラックをおいて常に2紙が読めるようにしようと試みたが、担当する図書委員への指導がうまくできなかった。

### 4. まとめ

新聞を通して、18歳市民を育てるという目標を挙げて取り組んできた。確かに、今まで新聞という媒体に触れたことのなかった生徒たちにとって、新聞の意義は伝えられたと思うが、自分の意見を持つ、クリティカルに読むという段階に進むことは十分にはできなかった。次年度に向け、さらに学習内容を充実させていきたい。